

米国で効果証明された自己抑制教育

子宮頸がんワクチン効果は限定的

今、改めて、結婚まで性交渉を控えることの意義を教える自己抑制教育の重要性が認識されています。現在、公的支援による女兒への子宮頸がん予防ワクチンの接種が推し進められようとしています。実際には、その効果は極めて限定的である一方、性交渉を控えることが最も有効な予防方法であるためです。

子宮頸がんは、ヒトパピローウイルス（HPV）という性交渉によって感染するウイルスが原因です。このため、「セックスデビューする以前の若い女性への HPV ワクチン接種は予防に極めて有効」といった説明が行われています。まるで子供たちに「ワクチンを打てば性交渉しても大丈夫」と言っているかのようです。

しかし、わが国が許可している子宮頸がんワクチンで予防できる HPV は、15 種類あると言われている HPV の中でわずかに 2 種類だけです。また HPV は一旦、体の中に入っても、大半が免疫力により自然に排除されているのです。従って、より重要なことは、免疫力のある健康な身体を保っておくことです。

また、ティーンエイジャーにとって、結婚前の性交渉は望まない妊娠をするリスクなど心身に大きなダメージを与えることへの危機感を持つ事がより重要ではないでしょうか？

自己抑制教育は、子宮頸がんやエイズをはじめ他の性感染症から確実に身を守るための知識を教え、性交渉へ

の誘惑に打ち克つ力を育み、未来のパートナーのために純潔を守る事を通して、人間としての自尊心、幸せな家庭づくりの土台を育む内容を持ち合わせています。

その自己抑制教育プログラムが、子供たちの性交渉を遅らせる効果を明確に持つことが、昨年 2 月、米ペンシルベニア大学のジョン・ジェモット教授らにより医学誌上で発表されました。

この調査は、フィラデルフィアの公立中学校に通う 6～7 年生の黒人生徒 662 人（大半が 12 歳）を対象に、生徒を無作為に選んで、それぞれ異なる教育プログラムを行うグループに分けて実施されました。その結果、自己抑制教育プログラムだけを受けた生徒のうち、2 年以内に性交渉を持ったのは 33% で、避妊法などを教えるプログラムを受けた生徒の 52% に比べ、19 ポイントも低かったのです。

また、両方の内容を組み合わせたプログラムを受けた生徒の性交渉率は 41% で、自己抑制だけを教えるプログラムの効果が高いことが実証され、今回、明確に自己抑制教育の効果が示されたわけです。

いま、私たちがなすべきことは、若者たちに自由な性行動を奨励することではありません。しっかりとした性モラルを身に付けさせるとともに、生命の尊厳を教える自己抑制教育の更なる推進が望まれます。

教育プログラムと2年後までの性体験率の関係

	3カ月後	6カ月後	1年後	1年半後	2年後
避妊法及び自己抑制教育	9.10%	13.50%	24.00%	31.90%	41.20%
避妊法を教えるプログラム	16.10%	23.90%	36.40%	44.80%	51.80%
自己抑制教育のみのプログラム	4.90%	8.70%	20.40%	25.00%	32.60%
健康管理を教えるプログラム	8.50%	16.00%	22.50%	34.40%	46.60%

授業時間は計8時間 *性体験のなかった子供のみ調査
米医学誌「The Archives of Pediatric & Adolescent Medicine」(2010年2月号)より



私たちは、
結婚前は純潔を守り、
結婚後は貞節を守る
「Pure Love」運動を
提唱しています。

「純潔」は、愛する人への最高のプレゼント

「貞節」は、夫婦の愛と信頼の絆



Pure Love Alliance – Japan

<http://www.plajapan.org/>

PLA-Japan 事務局

PureLoveAlliance-Japan 2011.1

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-2 成約ビル4F
FAX : 050-3488-2386 Email : info@plajapan.org